最下位北海道の消費量「なんとしてでも挽回」

揚げ揚げ宣言

高タンパク、低糖質商品も販売

――「普及」と言いましたが、ジャガイモの産地である北海道ではいっぱい食べられているのでは…。

「それが1人当たりの消費量では47都道府県で最下位なんですよ。全国平均は2カ月に1個ですが北海道は2カ月半で1個くらい。ちなみに私は年間2000個食べていますがね」

――2000個もぴっくりですが、北海道の最下位にも驚きます。

「特産地なだけにジャガイモを加工せずに、そのまま食べている人が多いようです。これをなんとしてでも挽回しないといけません」

――そのために考えていることは？

「パン粉をつけないで焼くベイクンコロッケや、健康意識の高い人に向けた高タンパク、低糖質の商品の販売を始めたりしています」

――ほかに新しい取り組みはありますか。

「札幌三越、厚別、麻生、新札幌と銀座に直営店があるのですが、今年4月、札幌大丸にオープンするN34CARATというコロッケが食べられる店の開発、監修をしています。国民食であり、究極のフィンガーフードのコロッケを気軽に食べてもらえる機会が増えればありがたいですね」

――コロッケ王子の異名の由来について教えてください。

「周りから我が社がコロッケ王国のようだと言われたことから、父である社長がコロッケ王国の王で、王位継承権第1位のコロッケ王子となったのが始まり。最初は恥ずかしかったけど今は気に入っています」

――やがては王になるのですね。

「近年の予定ではありますが王位継承には一つだけ条件があるんですよ」

――その条件とは？

「結婚することです。全国民にコロッケを食べてもらいたいというのは永遠の片思いだと思っていますが、こちらは両思いでないと成立しませんね」

――王子なら条件クリアは近そうですが…。最後に王子にとってコロッケって何ですか。

「父、母に続く第3の親。育ててくれたという意味でも、会社を支える商品としての財政的な意味でもかけがえのないものです。コロッケを通してたくさんの人と出会い、救われました。現在は女性に食べやすく小さいものも開発していますし、コロッケを通じてプリンセスも見つかるかもしれません」

座右の銘「プロフェッショナルとしてのプライド」と記した色紙を手に笑顔の藤井本部長

「コロッケ通じてたくさんの人と出会い救われた」

プリンセスも見つけられるかも!?

巻き返しへ

文化普及へテレビ出演70回以上

――「マツコの知らない世界」見ましたよ。

「とにかく楽しかった。そして反響も凄くて人生が変わりましたよ。生まれて初めてファンレターをもらって、フェイスブックのメッセンジャーの数が一気に5、6倍になったんです」

――デラックス景気ですね。

「翌年（16年）のバレンタインには段ボールいっぱいのチョコレートが届いたり、手作りのコロッケを送ってくれた方もいました。感謝いっぱいです」

――マツコさんの反応はどうでした。

「あまり食べないだろうと言われていましたが、おいしいと言って本番中かなりの量を食べてくれました。コロッケに対する熱い思いが私と近かったのもとてもうれしかった」

――テレビ出演のきっかけは？

「12年に日本コロッケ協会を立ち上げたのですが、それが目に留まったようです。関西のローカル番組などから声が掛かりだしました」

――コロッケ協会とはなんですか。

「私が会長を務めさせていただいているのですが、コロッケ文化の普及、発展を目指す団体です。さまざまなイベントを行ったり、コロッケ検定にも挑戦できるので皆さんも公式サイトをのぞいてみてください」

コロッケ王子

冷凍食品製造「サンマルコ食品」藤井幸大

青山千景がリーダー直撃 21世紀のフロンティア

連載再開第2弾は冷凍食品などを製造、販売するサンマルコ食品の藤井幸大マーケティング本部長（36）が登場。コロッケ文化普及へ東へ西へ。「マツコの知らない世界」「どさんこワイド179」など、テレビ番組にも70回以上出演しPRしてきた〝コロッケ王子〟が揚げ立てよりも？熱く語ってくれた。

下コロッケにかぶりつく藤井本部長と青山　上「父、母に続く第3の親」。コロッケ愛を、熱く語る藤井本部長

年間2000個食べ
父、母に続く〝第3の親〟
自分を育ててくれたという意味でも
商品としてもかけがえのないもの

♡藤井　幸大（ふじい・こうだい）1981年（昭56）12月3日、札幌市生まれの36歳。日大中退後に渡米し8年在住する。09年、カリフォルニア州アカデミー・オブ・アート大学広告マーケティング専攻卒業、サンマルコ入社。趣味はゴルフ。週4～5回キッチンに立つほどの料理好き。

♡青山　千景（あおやま・ちかげ）1986年（昭61）1月17日、札幌市生まれの32歳。北海学園大卒。2017年、北海道観光大使に就任。14歳でテレビCMデビューし、19歳からSTVラジオパーソナリティーを務める。TVh旅コミ北海道リポーターは10年目を迎え、179市町村訪問が2回り目に突入。

高校休んでアフリカへ 米国レストランで勉強…
〝ミックスフライ〟の経歴 商品開発に応用

取材後記　コロッケ一筋の藤井本部長だが、その経歴はミックスフライといった感じだ。高校を休んでタイ、アフリカへ。環境開発に興味を持って工学部に進んだが中退し、カーレースにのめり込んだり…。米国のレストランで勉強したこともある。「原材料一つとっても妥協しないで突き詰めていくことで、一流の味が分かるようになった。今、商品開発に生かされている」。さまざまな素材がコロッケを作り上げるように、王子も多くの経験を自分の持ち味にしているようだ。

本社・札幌市厚別区厚別東4条1の1の48。1979年創業。道産のジャガイモを使ったコロッケなどの冷凍食品を生産し、全国のスーパー、コンビニエンスストアで購入できる。コロッケの全国シェアは約16％。北海道以外には東京・大阪・仙台・名古屋・広島・福岡に支店・営業所がある。

▽日本コロッケ協会　2012年9月設立。「世界で唯一のクロケット法人」と称し「コロッケから世界の食卓を笑顔にする幸せ革命」を目指す。各地の逸品がそろう全国コロッケフェスティバルやポテト、クリーム、メンチなど各部門賞を競うコロッケグランプリを開催。東京都港区赤坂に事務局を構える。

▽サンマルコ食品